

'00 KVBC就職フェア ＜KVBC人材ネットワーク＞

終身雇用制度の見直しなどに伴い、少しずつ企業と個人との関係が変わりつつある昨今、失業率の上昇も影響し、来春の新卒予定者にとっては超氷河期時代にあります。

こうしたなか、KVBC人材ネットワークでは、今年も「'00 KVBC就職フェア」が5月11日（火）京都烏丸ホテルにて開催され、昨年を上回る数の学生を迎えました。

失業率4.8%という深刻な雇用情勢の下、就職を希望する学生にとってますます厳しい時代ですが、KVBC人材ネットワークでは、よりよい人材を求めようと、今年2月ごろから各大学・専門学校などにチラシやポスターなどを配布し、恒例の就職フェアを開催しました。3年前の就職協定廃止の影響もあってか、積極的な就職活動に取り組む学生が多いようで、昨年を大きく上回る参加人数となりリクルートスーツに身を包んだ学生たちが、緊張した面持ちで企業説明会に臨みました。



代表幹事の向園好信氏のあいさつの後、学生達はいっせいに各企業ブースへ。説明を聞きながら熱心にメモを取る人、積極的に質問する人、また説明の順番を待つ間、企業案内の冊子に目を通したり、友達同士で相談するなど、その表情は真剣そのものです。

さて、何社か説明を聞き、一息ついている学生達に感想を聞いてみました。

「資料請求していた企業から教えていただいて参加しましたが、こういった就職フェアに来るのは初めてなので、みんな熱心だなと感じました。私はデザイン・企画会社関係を希望していますが、説明会で企業の方の対応がよいと、その企業に入りたいなという気持ちになります」

（文系・女子）

「DMが届いてこの就職フェアを知りました。私はSE志望なので、このフェアはコンピュータ関連企業が多いということで参加しました。就職活動する中で感じたことは、面接ではなかなか個性が出しきれず、自分のことがあまりわかってもらえないということです」（文系・男子）

「私がこのフェアを知ったのは、大学の就職課で情報を得たからです。情報・コンピュータ関係の会社に入りたいと思っています。今日参加してみて思ったのは、1回に説明を受けられる人数が3～4人と少なく、待ち時間が長いところが多いので、説明を受けようという気が薄れてしまいます。会社は雰囲気良く、働きやすいところがいいですね」（文系・女子）

「就職活動を始めたのは比較的遅い方だったのですが、周りの話を聞くと、就職はやはり厳しいようです。機械関係か、SEの仕事がしたいと思っているのですが、今日はあまり『ここ』という会社はありませんでした」（理系・男子）

全体的に職種をある程度絞って就職活動に臨む学生達が多く、また「働きやすく、雰囲気の明るい職場」などといった良い職場環境を求める声も聞かれました。

一方、企業側の反応は、同ネットワークの委員長でもある（株）ユニシスの藤関治清氏は「今年は昨年に比べ、1カ月遅い開催となりましたので心配していましたが、思った以上の人数が集まりました。ある程度時間がたっても帰る学生が少なく、氷河期ということもあってか、とても意気込みを感じました。今年の就職フェアは大成功だったと思います」と手応えは十分感じられたようです。「わりと勉強して来ている学生も多いように感じました。しかし、やはりこの場で説明を繰り返すよりは、会社実際に来てもらって、社の雰囲気を肌で感じてもらう方がいいと思います」とおっしゃるのは日貴電子（株）の日比昌孝氏。

（株）ゼロワンの猪飼昭嗣氏は「超氷河期ということもあってか、学生の危機意識は強く感じられました。何度か他のフェアに参加している人と、していない人では、質問の内容に開きがあると感じましたね。人数は昨年に比べはるかに多く、手応えは感じました」。1人でも多くの参加者を希望する企業側として、予想を上回る来場者数は、十分に成果を上げられたといえそうです。

来る21世紀に向けて、新たなすばらしい人材が入社することを期待したいと思います。